

2019年度事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2015年（平成27年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定を受ける
2016年（平成28年）	音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校を開設

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15名 理事の現員数10名

役職名	氏名	執務	就任年月日	主な現職
理事長	中村 孝義	常時執務	2001年9月7日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
副理事長	本田 耕一	常時執務	2009年4月1日	大阪音楽大学教授
常任理事	岡野 幸義	非常勤	2012年10月1日	公益財団法人 太平洋人材交流センター 理事長
常任理事	十川 輝明	常時執務	2010年4月1日	（住友生命社会福祉事業団元常務理事）
常任理事※	中上 善生	常時執務	2007年12月1日	（大阪音楽大学元事務局長）（※2019年11月30日付退任）
常任理事※	福井 慎吾	常時執務	2016年5月29日	大阪音楽大学事務局長 （※2019年12月1日付常任理事就任）
理事	北野 徹	非常勤	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉会長
理事	角 和夫	非常勤	2019年12月1日	阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO
理事	田中 勉	常時執務	2014年4月1日	大阪音楽大学教授
理事	永井 譲	非常勤	1982年6月29日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
理事	本山 秀毅	常時執務	2018年4月1日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部学長

監 事

監事定数 2名

監事の現員数2名

氏名	執務	就任年月日	
花岡 浩二	非常勤	2016年5月29日	（住友生命保険相互会社元常務取締役）
水漉 征矢雄	非常勤	2018年6月30日	（学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授）

評議員

評議員定数 21～31名 評議員の現員数22名

氏名	選任条項	就任年月日	主な現職
荒田 祐子	法人職員	2014年6月30日	大阪音楽大学教授
井上 建夫	学識経験者	2018年6月30日	公益財団法人守山市文化体育振興事業団 副理事長
岡原 慎也	法人職員	2014年5月30日	大阪音楽大学教授
小畑 有子	法人職員	2010年6月30日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
金田 忠行	学識経験者	2014年6月30日	サンスター株式会社 相談役
北野 徹	卒業者	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉会長
木村 寛仁	法人職員	2012年5月31日	大阪音楽大学短期大学部教授
小林 義和	卒業者	2018年6月30日	尼崎市立尼崎双星高等学校教頭
坂口 尚平	卒業者	2013年4月1日	堺シテリオペラ一般社団法人評議員/指揮者
崎山 和英	法人職員	2014年4月1日	大阪音楽大学事務局次長
芝 道雄	学識経験者	2018年6月30日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト
下村 義和	学識経験者	2020年1月30日	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田中 勉	法人職員	2010年6月25日	大阪音楽大学教授
谷口 伸夫(※)	学識経験者	2016年1月30日	株式会社ケア・フリージア 代表取締役 (※ 2020年1月29日付退任)
中村 孝義	理事長	2006年4月1日	大阪音楽大学理事長
西山 健次	卒業者	2014年12月22日	大阪府立夕陽丘高等学校非常勤講師(音楽科)
福榮 宏之	法人職員	2013年9月20日	大阪音楽大学短期大学部教授
松尾 徹	学識経験者	2013年12月1日	非破壊検査株式会社顧問
松原 千代繁	学識経験者	2014年6月30日	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団 相談役
丸谷 明夫	学識経験者	2010年6月30日	一般社団法人全日本吹奏楽連盟理事長
水谷 雅男	卒業者	2018年6月30日	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉副会長
本山 秀毅	学長	2018年4月1日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部学長
森本 徹	法人職員	2014年6月1日	大阪音楽大学事務局次長

大学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	本山 秀毅
大阪音楽大学短期大学部学長	本山 秀毅
大阪音楽大学付属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2019年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数
音楽学科	210名	30名	900名	798名
計	210名	30名	900名	798名

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	1名	0名
声楽専攻	5名	7名
器楽専攻	14名	8名
計	20名	15名

●大阪音楽大学 大学院

研 究 科	専攻	入学定員	収容定員	在籍数
音楽研究科	作曲専攻	2名	4名	3名
	声楽専攻	4名	8名	10名
	器楽専攻	7名	14名	18名
計		13名	26名	31名

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	収容定員	在籍数
音楽科	100名	200名	239名
計	100名	200名	239名

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
音楽専攻	15名	7名

●大阪音楽大学付属音楽幼稚園

学 年	定 員	在園児数
3歳児3学級	105名	99名
4歳児3学級	105名	96名
5歳児3学級	105名	96名
計	315名	291名

Ⅱ 事業の概要

中期的な事業計画（学校法人が公益性を高め、社会の期待に応えるために達成すべき目標であり、本法人がさらなる発展を遂げていくために必要とされる目標として策定している「短期事業計画（2018年度～2021年度）」における重点推進項目は以下のとおりである。

＜短期事業計画（2018年度～2021年度）重点推進項目＞

イ）社会や時代が求める「音楽人」とは何かを常に問い直し、目指す音楽人育成のための教育体制を強化する。

ロ）教育水準をより高めるとともに、多様な学生にも対応する、両方向の施策を立案、実施する。これまでの様々な教育研究事業の妥当性の精査を図る。

ハ）地域及び社会との連携を図り、社会貢献事業を推進する。

ニ）「ちから強く生きる“音楽人”をここから」というメッセージをより一層社会に訴え、ブランドイメージを高める事業や効果的広報活動を推進する。

ホ）新校舎を含めた教育施設の効率的運用を、時間割の見直しとともに検討する。同時に既存施設改修事業を推進する。

上記の中期的な事業計画を踏まえ、2019年度においては、「人材の育成と財政の健全化を一層進めることによって、“専門性と汎用性を兼備した優秀な人材”を確保し、“教育の質と特色”をより充実させる。これにより、社会から高く評価されるより高度の教育水準の達成を通じて、社会や時代が求める音楽人を輩出させ、ステークホルダーの満足度を高める」ことを目標に本年度の事業計画を策定し、その推進に当たった。

1. 理事長の諮問による「将来構想実現検討・諮問委員会」から「新規事業開発室」へと引き継がれた課題のひとつである大学ポピュラー専攻の設置について、当初の予定を前倒しし、2021年度に開設することを決定した。専攻は短大に準じ、「ヴォーカルパフォーマンス専攻」と「ポピュラーインストゥルメント専攻」に分け、分野ごとの独創性を重視した質の高い音楽教育を目指す。また、2020年度開設の短大作曲デザイン・コースの学生募集活動は順調に進み、予想を超える新入生を迎える結果となった。
2. ミュージックコミュニケーション専攻の正課授業として企画運営を行っている「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」のプレイベントとして「ドリームコーラスコンサート」を、11月30日にザ・カレッジ・オペラハウスで開催した。関西学院グリークラブ、宝塚音楽学校、大阪音楽大学の3校による共演は企画当初より高い注目を集めた。コンサートは3校それぞれの個性を活かした内容で構成され、フィナーレでは手塚治虫の代表作「鉄腕アトム」を3校合同で演奏した。学生によるコンサート運営への心配はあったが、かつてない試みに会場は入場者で埋め尽くされ、拍手喝采のうちに幕を下ろした。
3. ミュージッククリエーション専攻、第1期生の卒業を迎える今年度は、卒業作品完成披露会「MUSIC CREATION AWARDS 2019」を、1月30日にミレニアムホールで開催した。卒業作品は「歌モノ」「インスト」「劇音楽」「室内楽」の4つの分野から学生自身が選択し、制作した「セルフプロデュースアルバム」であり、披露会はコンテストを兼ねたものとなった。審査員長を作曲家・三枝成彰に依頼したほか、株式会社ゲオホールディングスや有限会社楽八から学外審査員を招き、さらにYouTubeによるライブ配信など実社会を想定した披露会は、これから卒業する学生の音楽活動を強く後押しするものとなった。
4. 2017年度から始まった3人の演出家が年替わりで演出する「ディレクターズ CHOICE」シリーズ第三弾となる第55回オペラ公演は、岩田達宗が演出を担当し、牧村邦彦指揮のもと、ベッリーニ作曲「カプリエティとモンテッキ」を11月1日と11月3日にザ・カレッジ・オペラハウスで上演した。ディレクターズ CHOICEシリーズの最終を飾る公演にふさわしく惜しみない拍手が贈られ、盛況のうちに終演した。
5. 12月6日にザ・シンフォニーホールにおいて、飯森範親指揮のもと第62回大阪音楽大学定期演奏会を開催した。J.ラター「マニフィカート」、G.マーラー「交響曲第1番 ニ長調『巨人』」の2曲を披露した。また、「マニフィカート」では石橋栄実教授によるソプラノ独唱と大阪音楽大学合唱団の掛け合いが会場に響き、演奏会は盛況

のうちに終演した。

6. 3月8日にザ・シンフォニーホールにおいて、ヤン・ヴァンデルロースト指揮のもと第51回吹奏楽演奏会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等を考慮し、中止した。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

2019年度は作曲研究室2、音楽学研究室1、声楽研究室10、ピアノ研究室13、管弦打研究室5の計31名が在籍。各研究室による修士演奏、修士論文の審査と口述試験の結果、作曲1、音楽学1、声楽7、ピアノ7、管弦打4の計20名が修了した。また大学院定期演奏会を11月11日にザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し、学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。なお、2020年度入試は、前期・後期日程合わせて16名が合格した。

<大学>

音楽学部には798名が在籍し、178名（内、前期に6名）が卒業した。卒業生の中から、最優秀賞6名、優秀賞11名を表彰した。新型コロナウイルスの感染拡大防止及び学生、教職員、来場者の健康・安全を考慮し、2020年3月に開催予定であった吹奏楽演奏会、卒業演奏会、卒業式を中止するとともに、その他の行事についても中止または実施規模を縮小した。

<大学専攻科>

音楽専攻科には15名（年度末13名）が在籍し、13名が修了した。授業「音楽実践演習」の一環として、学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」を中丹文化会館（10月26日）、西宮フレンテホール（11月16日）の2会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。なお、当初LICはびきの（10月12日）でも開催予定であったが、台風接近に伴い中止となった。

<短大>

音楽科には239名が在籍し、112名（内前期に6名）が卒業した。卒業生の中から最優秀賞1名、優秀賞9名を表彰した。年度末には授業・レッスンの集大成として、各コースのコンサートが行われた。2020年度より作曲コースと電子オルガンコースを統合して新たに作曲デザイン・コースとすること、また、ポピュラー・コースをヴォーカルパフォーマンスとポピュラーインストゥルメントの2つコースに再編することに伴い、具体的なカリキュラムの構築と編成を行った。

<短大専攻科>

専攻科には7名が在籍し、5名が修了した。学生が自ら企画・出演する「コンサート・プロデュース」が7月17日にミレニアムホールで開催された。

<キャリア関連>

入学式後に保護者対象のキャリア支援に関するガイダンスを実施し、進路サポートの内容や近年の進路・就職実績の説明を行った。大学3年次生、短大1年次生を対象とする合同進路・就職ガイダンス（参加者74名）について

は、在学生在が卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移す契機となるように配慮した。また企業就職志望者を対象にMIRAIセミナーを6回実施、自己分析・エントリーシート対策やSPI性格検査等を提供した（参加者延べ72名）。これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室（ヤマハ、カワイ、三木楽器等）の講師採用説明会や公立学校教員採用（大阪府、大阪市、堺市、豊能地区、神戸市、和歌山県）説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊（航空、陸上）、消防音楽隊（神戸市、堺市）や任天堂、ユー・エス・ジェイ、東京ディズニーリゾート等の採用説明会を実施した。また、卒業生による懇談会MIRAIカフェの中で多様な進路を在学生在に提示することができた。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催した。教員採用試験対策として一般教養、教職教養については2014年度から継続して講座を実施し、2015年度からはさらに公務員試験対策（音楽隊含む）もWeb講座として継続的に実施している。音楽教室講師を目指す学生にはヤマハ音楽指導及び演奏グレード5級取得準備講座、音楽教室how-toセミナーを開催した。また、年度途中にも保護者対象にキャリア支援に関する説明会&懇談会を行い、大学のキャリアサポートの枠組みの説明及び社会で活躍する卒業生との懇談を行った。

キャリア支援センター学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学3年次生・短大1年次生を対象に6月～10月（8月除く）に、大学4年次生、短大2年次生を対象に6月、7月にかけて実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。最後にキャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て夏期・春期の年2回実施し、25の企業・団体に対し延べ42名を派遣した。実習前にはマナー等の事前指導を行い、終了後は振り返り会と報告会を行った。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、大学コンソーシアム大阪、兵庫県経営者協会と提携を結び、希望学生の受付、申請を行った。

※大学主催インターンシップについては新型コロナウイルス感染症対策のため、3月以降の実習を中止した（実習対象企業5社、実習生7名）。

CI活動の再点検とそれに基づく教育改革

●要旨

2015年までに大学として取り組んだ「CI（カレッジ・アイデンティティ）活動」を再認識し、教育、研究の場に生かすことを2018年度から4年間の方針とし、学長のリーダーシップにより「CI活動」での取り組み内容をベースにして教育改革を推進した。

●成果及び達成度

音楽の専門領域での教授に関して、本年度トライアル実施された教員による自己評価によりさらに充実が図られ、同時に学内のリメディアル教育やメンタル面での丁寧な対応に対する認知度も高められている。社会に対する存在意義の最もシビアな接点はキャリアの分野であるが、大学のキャリア教育は音楽の専門教育と相乗効果を持ちながら展開され、成果をあげている。卒業生のキャリア支援においても万全の態勢で臨んでいる。2019年度に完成年度を迎えたミュージッククリエーション、ミュージックコミュニケーション両専攻では、従来の専門領域とのコラボレーション（オペラや演奏会の演出、舞台美術など）を試み成功している。

●今後の展望

大学としての具体的な方針は以下のとおりとし、引き続き教育改革を推進する。

・目指す方向性

本学が継承してきた、音楽に対する見識や技術を高めること、世の中に認められる優秀な学生を育成することは堅固に維持しつつ、多様な学生に対応する基礎力の向上、学習支援の充実に努める。

・存在意義

社会に対する存在意義として「ちから強い音楽人」を育成、輩出することを掲げる。高い音楽性や技術はもとより、音楽に対峙する中で得られる忍耐力、集中力、創造力、協調性などを持つ人材を育成することに努める。

・在り方

ミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻や100周年記念館を基盤に展開される新しい動きと、伝統的な音楽教育から得られる成果が、対峙しダイナミックに刺激し合うことを通じて、本学の将来の在り方を示すことになる。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

2019年度は「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」における企画として、フリンジを含み様々なイベントを開催した。特に11月30日にオペラハウスで開催された関西学院グリークラブ、宝塚音楽学校、大阪音楽大学による「ドリームコーラスコンサート」は多くの聴衆から高い評価を得ることができ、企画全体の中でのハイライトとなった。

また、豊中市文化芸術センターにおける有料コンサートとして、1月24日に「TAP たっぷりタップダンス!」、1月31日に「癒しのバリ島 0 泊音楽旅行」を2週連続で行い、集客の面で今後改善の余地があったものの、学生たちにとっては大きな収穫となった。さらに、同センターにおけるロビーコンサート「低音楽器の魅力」等を今年度も3回実施した。その他、同志社女子大学との共同によるK-POPアーティストによるコンサート、福井高等学校におけるワークショップ、豊中市魅力アップ助成金を活用した「子どもの食堂」等、様々なイベントを実施した。

●成果及び達成度

産学官連携の要素を含む「MOT!」において、「ドリームコーラスコンサート」は非常に完成度の高い内容であり、実施直後に次年度の開催が確定したが、2週にわたる有料コンサートは、事前の広報活動等において学生の負担がやや大きいように思われた。

●今後の展望

今後、イベントが特定の時期に集中しないようスケジュール上の工夫を試みる必要がある。また、上記以外にも民間や行政から様々なイベント実施の提案があるが、学生への教育を主体としつつ、収支の面で事業全体の黒字化を図ることは現状では困難である。

●助成金等

「阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!」に、ダイキン工業株式会社様、株式会社ヤンマー様より協賛金をいただいた。「子どもの食堂」に、豊中市魅力アップ助成金を受けた。

プロダクション（大音ラボ）運営

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会を繋ぐものとして、ミュージッククリエーション専攻が主体となり、渡邊崇教員を中心にプロダクションを運営し、助手を企画推進の中核として事業展開をした。この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生自身がキャリア形成への関心を深め、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的に含まれる。

またプロジェクトとして、企業・機関からの依頼による音楽制作など収支バランスを考慮した事業展開を行った。

●成果及び達成度

2019年度は学生の学外プロジェクトとして以下の10プロジェクトを実施した。参加した学生、卒業生の人数は以下のとおり（教員・学外業者等は除く）。

〔ミュージッククリエーション専攻プロジェクト〕＊音楽制作・ライブ等

オガステライブ5出演（学生3名）・オガステライブ6出演（学生2名）・「パブリックドメイン」CD制作（学生4名）・映画「Come&Go」音楽制作（学生5名）・大阪府池田土木事務所「耐震啓発ソング」制作（学生2名）・毎日放送「JOC」番組音楽制作（学生4名）・毎日放送「みんなの甲子園」（学生4名）・「山田工務店」CM音楽制作

(学生 1 名・卒業生 1 名)・「浜松未来総合専門学校」CM 音楽制作 (学生 1 名)・「スピオルト」VP 音楽制作 (クライアント都合で中止、製作費は発生)

上記以外にもミュージッククリエーション専攻では、「Demo 送付支援」として学生が制作した音源を学外プロダクション等へ送付する事業を実施した。学生 1 人 10 社への送付を課し、約 550 通を音楽制作会社等へ送付した。

〔著作権管理〕

(株) 日音及び (株) アミューズより印税の支払いがあり、著作者の学生へ分配を行った。

〔音楽配信事業〕

Daion Lab をレーベルとして 2019 年 5 月より音楽配信を開始し、7 枚のアルバムをリリースした。

●今後の展望

学生の音楽制作の実践的な場となる学外プロジェクトを継続して行う。また、それらが学生のキャリア形成に結びつくよう支援していく。今後もミュージッククリエーション専攻の教員・助手とキャリア支援センターが連携して事業展開を行う予定である。

【2】国際交流

2019 年度は以下の学生が海外提携校留学助成金制度の適用を受け、ドイツの提携校で学んだ。

・大学 2 年ピアノ演奏家特別コース フォルクヴァング芸術大学

また、今年度は提携校 8 校の内、韓国の啓明大学校、及びドイツのワイマール・フランツ・リスト音楽大学との覚書を更新した。さらに、次年度に向けてドイツにおける新たな音楽大学との提携に向けて調査、検討を開始した。

【3】学生生活支援・福利厚生

2019 年度に学生相談室を来訪した学生は延べ 765 名であり、人数的には前年度よりも少なくなったが、学生一人ひとりの対応に要する時間が長くなる傾向にある。特に近年は障がいがある学生への合理的配慮が強く求められていることから、2020 年度以降はインテーカーが常駐する曜日を 1 日増やし、月曜日から金曜日の週 5 日間開室することとした。経済支援の面では 2020 年度における国の「高等教育の修学支援新制度」の対象となるための機関要件の確認を受けていなかったことから、本学独自の授業料減免制度を創出して対象となる学生を募集した。適用者の確定は 2020 年 6 月となる予定である。また、本学独自の奨学金制度である「大阪音学大学奨学事業財団奨学金」の 2019 年度の貸与者は大学 13 名、大学専攻科 1 名、大学院 2 名、短大 2 名であった。

学習支援室の運営

●要旨

2017 年度より作曲資料室内の「学習支援室」において、非常勤助手 2 名が音楽理論、ソルフェージュの個別指導を行っている。2019 年度の利用者は実数で 57 名であるが、同一の学生が繰り返しこの支援室を利用しており、指導には多くの時間が費やされている。

●成果及び達成度

開設から 3 年を経て、習熟度に不安がある場合は学習支援室を利用することが広く学生の間に定着し、本学の教育活動において不可欠な存在となっている。

●今後の展望

音楽理論やソルフェージュ等に加え、外国語の習熟度にも問題がある学生は、留年や退学となる事例が多いことがデータ分析から明らかになってきた。このため、2020 年度中に外国語（英語）の学習支援室を開設すべく、e ラーニングの活用を含めた具体的な検討を開始している。

大学祭開催・自治会活動に対する支援について

●要旨

前年度に続きミュージックコミュニケーション専攻の学生が中心となって実行委員会を組織し、行事予定表の日程を1日に短縮して第2キャンパスで大学祭を実施した。また、学生自治会の下にリコーダーアンサンブル同好会、ボランティア同好会が新たに発足した。しかしながら、学生相互の親睦、交流を図ることを目指して自治会の運営にかかわろうとする学生は少なく、会計処理等において大学の助言や指導が続いている。

●成果及び達成度

大学祭ではミレニアムホール、K号館にそれぞれ会場を設け、学生有志による演奏、外部ゲストによるバンド演奏やお笑いライブを交互に公開した。また、「憩いの広場」への模擬店の出店は4件であった。自治会活動全般では、学生の自主演奏会が活発化していることから、自治会予算から助成金を支出する機会が増えている。

●今後の展望

大学祭の終了後、経費節減の目的もあり、今後は外部ゲストの招聘をできる限り控え、在学生主体のイベントとすることを申し合わせた。また、地元のライオンズクラブからの要請により、在学生の同好会として「レオクラブ」が発足し、次年度より音楽を中心とするボランティア活動を展開する予定である。

【4】教員の研究活動

2019年度は研究委員会を9回開催し、研究出張の助成対象、研究活動に関する規程及び研究助成等について審議し、学内における研究倫理の啓発等について協議した。また、研究活動を活性化させるための意見交換や助成申請に対する審査を行った。これらに加え、投稿された論文等の査読を行った上で『大阪音楽大学研究紀要第五十八号』（論文3編、研究ノート1編、報告3編を収録）を3月末にホームページに公開した。また、図書館分科会として新規購入資料の選定を実施した。

FD推進

●要旨

定例のFD総括委員会は10回開催され（第11回は流会）、2019年度活動案に従い、FD研修会、授業見学、新任教員の研修、アクティブ・ラーニングの研究、教学IR分科会との連携、自己点検・評価統括委員会との連携活動として行う授業改善計画書について議論を重ねた。また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のフォーラムに教員2名を派遣した。

●成果及び達成度

2019年9月4日（水）と2020年2月7日（金）に外部講師を招聘しFD研修会を行った。2019年度は「障害のある学生への修学支援」をテーマに専門家を招き、一回目は講演、二回目は具体的な事例をもとに、合理的配慮に基づく対処について研修を行った。各部会から提出された2018年度FD活動報告書を基に、2019年6月にFDフォーラムを開催した。授業見学は年々実施件数が増え、各教員への周知が広がりつつある。教学IR分科会との連携による、成績分布状況の把握について議論を重ねた。また、教学IR分科会の提案を受けた内部質保証のための組織図について、FD総括委員会で検討を重ね、その後、大学・短大運営会議、教授会での審議を経て確定した。四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のフォーラムへの教員派遣については、講座を受講した教員からFD総括委員会において講座の意義や充実度について報告があり、次年度以降も継続して本学教員を派遣することとした。

●今後の展望

FD研修会は、非常勤教員も含め積極的に参加する教職員が増えた。また、他部会のFD活動を知ることを目的に行われたFDフォーラムは、部会毎に口頭発表が行われ、書面だけでは分からないさまざまな活動を知る機会となり

有意義であった。成績分布状況の把握については、成績評価の方法やそのあり方を内部質保証に結実するよう今後も検討を重ね成案を得たい。

【5】自己点検・評価体制

自己点検・評価統括委員会を10回開催した。その中で、「学生による授業評価アンケート」における設問項目の検討や、平成30年度6月発行の大阪音楽大学及び大阪音楽大学短期大学部の自己評価報告書を踏まえた「改善・向上方策（将来計画）とその進捗状況に関する報告書」の作成、学生満足度調査の集計結果の分析、大学専攻科の3つのポリシーの改定原案の策定等を行った。また、教育課程別の自己点検・評価委員会を兼ねる大学・短大の各運営会議、大学専攻科運営委員会及び大学院の運営委員会において、前期・後期とも自己点検・評価に関する議題を扱い、自己点検・評価体制の実質化を推進した。

学生による授業評価アンケート

●要旨

自己点検・評価活動の一環として、「学生による授業評価アンケート」を行った。「個人指導による音楽実技」（レッスン）科目は後期において、それ以外の科目（リレー式授業等による一部科目を除く）は前期及び後期において、いずれも無記名式のアンケート用紙により実施した。回収したアンケートは、教育課程別・科目分野別・科目別等に集計し、各授業担当教員に集計結果及び自由記述意見欄の記載内容を返却した。

●成果及び達成度

大学及び短大の全教育課程を総合した2019年度のアンケート回答率は79.7%であり、昨年度の実績を上回った。アンケートの集計結果は冊子にして、2020年度前期中に図書館や教職員集会室等、学内数カ所に配備する予定である。アンケートについては昨年度に引き続き、1単位あたり45時間の学修を標準とする単位制度の実質化を推進するため、「予習や復習など、この授業のために費やした1週間あたりの平均的な学習時間」及び「宿題の実施、書籍・プリントを読む、楽曲の練習・聴取、発表の準備など、教員から授業外の学習について指示があった。」を中心的な設問項目とした。また、レッスン科目のアンケートについては、大学・短大の1年次生の「レッスンカルテ」の利用促進を図るため、同カルテに関する設問を加えた。

担当教員に返却したアンケート集計結果の内、特に自由記述欄に記された受講者の意見をまとめたものは、教員による授業の振り返りと、新たな教授法の開発を促すものと思われる。

●今後の展望

アンケート実施に関する周知を徹底するとともに、過去のアンケート項目との整合性・継続性を踏まえた上で、学生の能動的な学習行動を推進する設問のあり方を検討する。また、今後も同アンケートを継続してデータを蓄積し、教育改善に向けた議論の基礎資料として自己点検・評価統括委員会や大学・短大の運営会議等において活用する。

自己点検・評価

●要旨

2018年度作成の「大阪音楽大学自己評価報告書」及び「大阪音楽大学短期大学部自己評価報告書」における「改善・向上方策（将来計画）」の達成状況を自己点検・評価統括委員会等において精査し、大学・短大別に「自己評価報告書における改善・向上方策（将来計画）とその進捗状況に関する報告書」を作成した。

また、自己点検評価に係る組織及び責任体制を見直し、新たな「学校法人大阪音楽大学 自己点検・評価組織規程」を策定した。

●成果及び達成度

大学・短大運営会議において上述の「自己評価報告書における改善・向上方策（将来計画）とその進捗状況に関する報告書」を検討した結果、大学・短大とも特に以下の事項について留意が必要との認識に至った。

- 1) 教員の教育力向上に関し、2020年度は引き続き授業見学における参加者数の向上に努め、2021年度には学生からの評価の高い授業を特定期間に公開できるようにする。
- 2) 学内の各種データについては、規程を整備し、教学 IR 分科会において利用可能としている。現在、同分科会では主にマクロ的なデータ分析に取り組んでいるが、将来的に個々の学生に関するエンrollment・マネジメント構築が必要である。
- 3) 出席状況調査において問題のある学生への個別指導を行うなど種々の取組を継続し、また学習支援体制も整いつつあるが、学生の休学・退学率は改善していない。授業への出席に問題のある学生をその特性に応じ継続的にコーチングする必要性から、担当部門の手厚い人員配置が急がれる。

●今後の展望

本学は大学・短大とも 2021 年度に認証評価を受審する予定である。これに向けて、教育の内部質保証の観点から、学修成果の把握・可視化を一層推進する必要がある。このため、各学生の卒業時におけるディプロマ・ポリシーの達成度を説明するディプロマ・サプリメント（学位に関する補足的文書）等の導入により、学修成果をよりの確に把握できる仕組の構築を検討する。

授業改善計画書

●要旨

2018 年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）及び一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書は講義・演習科目については教育課程別に、レッスン科目については教員別にまとめて CD-R に集成し、同計画書を執筆した全教員に配付した。

●成果及び達成度

授業改善計画書の主要な目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることにより、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書を CD-R として集成し、各教員に配付したことにより、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業評価アンケート」に対するフィードバックとして、学生及び教職員が自由に閲覧できるように、附属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●今後の展望

今後も CD-R での授業改善計画書の配付を継続するとともに、学生の学習促進に効果のあった有用な事例を紹介する小冊子を作成し、全教員が積極的に活用できるよう学内メールボックス等を通じて配付する。

【6】音楽メディアセンター 附属図書館

過年度に図書館業務を手作業から CALIS へシステム化を試みた際、図書原簿とシステム上のデータの間に差異が生じていたことが 2018 年度に明らかになった。このため、今年度は実際の資料が除籍されているにもかかわらず、原簿上は存在する資料を完全に削除する作業を継続的に行い、図書資料の資産総額をより正確に表示することに注力した。また、他の図書館との連携の面では、国立国会図書館が中心となり、日本全国の図書館における日々のレファレンスの記録や情報をデータベース化し Web 上で提供する仕組みである「レファレンス協同データベース」に参加することを決定し、申請の手続きを行った。

さらに、神戸新聞社等が主催し、兵庫県立美術館で 10 月～11 月に開催された「ショパン 200 年の肖像」展におい

て、本学が所蔵する雑誌3点が貸し出し期間中、展示品として公開された。

これらの活動を経て、2020年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約113,000点、視聴覚資料が約54,000点となった。

図書館 集密書架の増設

●要旨

将来の蔵書構成に関して、E号館の書庫に収蔵する資料の半数以上を除籍することが既に2017年度中に審議、決裁されており、2018年度は実際にそれらの資料を処分することとなった。しかしながら、処分されずに残る資料をK号館の図書館に収蔵する場合、書架やスペースが明らかに不足するため、1階の閉架書庫に集密書架を増設することとし、2019年度は、工事及び資料の移動を行った。

●成果及び達成度

K号館竣工時にスペースがあらかじめ確保されていたこともあり、書架本体の設置は円滑に終了した。また、図書資料の移動の際に書架の規格違い等から問題が生じることが多い「再配架」の作業も順調に終了した。

●今後の展望

E号館より完全に図書資料を撤収し、今後空きスペースは様々な用途に転用が可能だと思われる。また、移動した資料だけではなく、図書館における新たな資料の収蔵においても多少の余裕が生じる結果となった。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

一般公開と「学芸員による展示解説」においては、楽器資料館のWebサイト経由や電話での事前予約制が定着してきた。不特定多数の随時来館による混雑が回避でき、気象警報発令時、予約者への連絡も可能になった。スタッフ配置、校舎のセキュリティ面でも有効であると思われる。

一般来館者（有料）のうち、展示解説参加者（観覧料と別途500円徴収）の割合は、2019年度は18.26%であった（2017年度は22.7%、2018年度は33.3%）。有料化により一般客の減少を懸念したが、むしろ観覧、解説など知的体験を楽しむ層が定着してきている。

情報発信の面においては、同館Webサイトの更新、情報発信を推進しており、テレビ番組の取材が3件（9月26日 青森テレビ・三味線のルーツをたどる取材、10月28日 eo光チャンネル mineo 中継（展示室から生放送）、10月31日 NHK ファミリーヒストリー「フジコ・ヘミング編」（フジコ氏の母について））、新聞社の取材・記事掲出が1件（1月31日神戸新聞）あった。また、催事、学生対象のワークショップをSNSなどで発信している。

3つに区切った展示室において、展示コンセプトを明確にすることにより、楽器資料館の特徴を発信することができた。また、2018年度より引き続き、新しい文献情報や研究成果情報を反映することを目標に、旧来の展示キャプション、スポット解説の更新を推進している。

館内授業は、2018年度以降、鍵盤楽器（チェンバロ等）、フォルテピアノ（古典ピアノ）を中心とした授業が増え、学生が「オリジナル楽器の演奏を体験する授業」として確立してきた。2018年9月ワルシャワでの「第1回シヨパン国際ピリオド楽器コンクール」開催の影響か、学生のフォルテピアノに対する興味が明らかに増加したと捉えている。1回の授業で、最大11点のオリジナル鍵盤楽器を使った授業は、国内では、本学でしか経験できない贅沢な授業であると思われる。フォルテピアノを使用した授業の補足として、フォルテピアノ・ワークショップを4日間開催した。

学内部署との協働として、11月2日 豊中市民対象「大阪音楽大学 市民開放デー ミュージアム・ツアー～楽器から世界が見える～」を午前と午後各1回開催し、合計42名の参加があった。11月3日 学生自治会からの依頼により、大学祭での無料開館を実施し、128名の入館者があった。大学祭スタッフが展示室の監視を行ったが、短時間の職場体験ともなり学生から好評であった。11月24日 池田市教育委員会主催 ミュージックデイにおいて小学生対

象の講座を実施し、48名の参加があった。楽器の歴史についてレクチャーを行った。

学外機関・団体との連携・協力においては、連携催事として、楽器資料館が加盟する「かんさい・大学ミュージアム連携」の連携展示の一環で「西洋音楽と KIMONO」を開催。展示室で校史画像、戦前に出版されたピース楽譜のパネル展示を開催した。連携館の大学史資料担当者から本学の歴史的資料の活用方法に対し、高い評価を得ることができた。このほか国立文楽劇場所属の研究者の依頼により、館所蔵「二世鶴沢清八浄瑠璃本コレクション」の調査に協力、ピリオド楽器の演奏団体の演奏会にコピー楽器を貸出、大手放送局 2 社の番組制作担当者に電子メールによるレファレンスを行った。

保安・防災の面では、館スタッフによる防災・避難訓練を行い、避難誘導灯、消火器の位置などを確認した。多人数の来館時に備え、館の特質に即した安全対策の確認作業を実施し、殊に避難経路の確認を重点的に行った。また、車いすの点検も随時行っている。

図書・視聴覚資料、旧研究所資料については、過年度のデータ遡及入力を進め、旧音楽文化史研究室の資料（関西西洋楽史資料）の実態を明確にする作業を推進した。戦前に出版された楽譜のコレクション展示を試み、今後の方針を検討することとした。

「楽器資料館展示ケース内照明器具取替え」

●要旨

展示室の天井照明、スポットライトを LED 化した結果、「明るく見やすい展示」が具現できた。現在、照明器具付き展示ケース 57 台（大半が製作後 20 年以上経過）を旧校舎から移行使用している。旧来のケース内上部の照明器具は、旧来の蛍光灯と紫外線防止型などの特殊蛍光管を使用しているが、今後、入手困難が見込まれる。LED 照明器具に取替えることにより、観覧しやすい環境が達成できる他、次の利点がある。①消費電力が少ない。②器具の寿命が長い。③発熱リスクが少ない。④展示資料に有害な紫外線発生がほぼない。⑤今後、器具等の入手困難を回避できる。

●成果及び達成度

「見やすい展示」を目的に、各地の博物館・美術館を参考にして、展示ケースの照明を LED に交換した。演色性を重視し、蛍光ランプの光色を吟味した結果、目に優しく、かつ楽器の細部や装飾を見ることが可能になった。殊に、「江戸期の箏」の象嵌、螺鈿、蒔絵など精緻な装飾が克明に鑑賞できるようになったため、国内外の観覧者の満足度が高まったと思われる。

●今後の展望

当該計画は 3 年計画とし、1 年目（2018 年度）は展示室 1 と 2 の 17 ケース、2 年目は展示室 3 の 34 ケースを対象とした。3 年目は横長型展示ケース（サントリーコレクションなどの 6 ケース）の器具交換を実施する。

【8】付属音楽幼稚園

在園児は 5 月 1 日付けで 291 名（3 歳児 3 クラス 99 名、4 歳児 3 クラス 96 名、5 歳児 3 クラス 96 名、前年度比 2%減）、3 月には 95 名が卒園した。

2 歳児親子教室「りんごクラブ」は 35 組募集のところ、前期（5 月～9 月）は 86 組、後期（11 月～2 月）は 56 組の申込があり、昨年度同様クラスを増設した。子育て支援の一環として実施している 1 歳児の親子教室の参加者は延べ 363 名であった。2 歳児の親子を対象にした「ようちんであそぼ」の参加者は延べ 243 名で、2020 年度の入園者の 57%が「ようちんであそぼ」の参加者であった。音楽教室「クレフ」（希望者対象の課外レッスン、ピアノ・ヴァイオリン・マリンバの 3 種）は受講者が 5 月 1 日付で 90 名、対象園児の 47%が受講した（前年度比 10%減）。

園庭の芝生修復

●要旨

「広い芝生の園庭で裸足で遊べる幼稚園」は府内でも希少で、入園希望者の当園選考の重要な要素になっており、保護者や見学者にも好印象を与えている。園庭の傷んだ芝生を修復するため、「エアレーション（硬くなった土壌に穴を開け、空気を送り込むこと）」、芝刈り、施肥等を行った。

●成果及び達成度

修復の効果がみられ、芝生も再生され、保護者、見学者にも好評であった。

●今後の展望

芝生は本園の大きなアピールポイントでもある。専門家に確認しつつ、雑草の除去や施肥等の継続的なメンテナンスを実施することで、非常に成果があった。今後も継続して維持管理を行っていく。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

入試広報関連として、オープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、フェスティバルなどの各種イベントを年間を通じて開催した。また DM 発送や高校訪問活動を展開し、イベント参加者を増加させ、より多くの人に本学への関心度と志願度を高めてもらうよう努めた。

入試実施関連として、推薦入試、一般入試 A 日程、一般入試 B 日程の 3 つの入試とそれに関連した認定テスト等を滞りなく実施した。また来年度の入試制度改革のための準備に着手し、新入試制度の構築に努めた。

志願者の増加を目的とした体験的イベントの実施

●要旨

オープンキャンパスを年間 4 回実施。また、専攻・コースごとに公開レッスンやマスタークラス、グループレッスンなど、観て聴いて体験するイベントを年間通じて実施した。代表的なイベントは、吹奏楽フェスティバルやポピュラー・ミュージック・フェスティバル、キャンパス・レッスン、出張授業である。また、無料のレッスンイベントとして「トライアルレッスン」を年間 3 回開催した。

●成果及び達成度

オープンキャンパスや専攻・コースごとの体験的レッスンイベントを通して、本学の教育理念や、本学教員の指導・演奏技術の素晴らしさを伝える良い機会となっている。これらのイベントをきっかけとして、本学の特別推薦を受験する高校生が毎年一定数存在し、志願者の確保につながっている。

●今後の展望

本学教員と志願者層を繋げるイベントを新たに設けるとともに、従来のイベントについても内容等の精査を重ね、高校生のニーズに合った催しを開催して志願者の増加に努める。

オープンキャンパスの開催

●要旨

継続的な志願者確保のため、オープンキャンパスを春（4 月、5 月）・夏（7 月）・秋（10 月）の計 4 回開催し、専攻・コース別体験授業、カリキュラム・入試課題解説、個別相談のほか、在学生による演奏、特任教授による特別イベント、施設見学ツアーなどを行った。

●成果及び達成度

高校生については毎回 300 名以上の来場があり、2 年生、3 年生が多数を占めた。教員・在学生による各専攻・コースの案内、個別相談による入試制度等説明により、個々の参加者の理解が深まり、志願者の増加につながっている。

る。

●今後の展望

教員・在学生・職員が一体となり、より本学の魅力を発信できる機会とし、参加者の中・高生を増加させ、志願者確保へとつながるイベントとする。

吹奏楽フェスティバルの開催

●要旨

6月に中学・高校の吹奏楽部員を対象に、本学学生による吹奏楽コンクール課題曲の演奏や本学教員による楽曲分析講座、木管・金管・打楽器のセクション別講習会を実施した。また、ポピュラーライブ、ジャズライブ、ミュージカル公演に加え、作曲デザイン講座も実施した。

●成果及び達成度

今年度は、本学の教員に加え、各地で活躍する卒業生（教員）にもご協力頂き、吹奏楽コンクール課題曲演奏及びアドバイスをを行ったが、例年以上に好評を得た。

参加者も 1,000 名を超える中高生が集まり、本学の魅力、教員の指導力、吹奏楽の素晴らしさを伝える良い機会となった。

●今後の展望

中高生の興味喚起を促すため、更に充実したイベントを目指す。また、吹奏楽に携わる全ての参加者に対し、本学の魅力（教員・施設・カリキュラム）を知っていただく良い機会と捉え、従来の広報に加え、SNS や YouTube 等を活用し多角的に広報活動を展開する。

ピアノセミナーの開催

●要旨

ピアノに取り組む小・中・高校生及びその指導者を対象としたピアノ関連テーマのセミナーや懇親会を開催し、本学との関係構築を図るとともにピアノ専攻・コースの PR を行った。

●成果及び達成度

全二部構成で、青柳いづみこ講師をゲストに開催した。第一部をレクチャーコンサートとトークセッション、第二部を懇親会としたところ、いずれも多く参加者があり、ピアノ指導者と本学教員との良好な関係構築に資するイベントとなった。

●今後の展望

2020 年度においては、ピアニストの海老彰子氏をゲストに開催を予定している。引き続き、小・中・高校生及び指導者との関係構築に努め、本学ピアノ専攻・コースでの充実した学びを発信していく場とする。

ポピュラー・ミュージック・フェスティバル

●要旨

本学ポピュラー関連専攻・コースの認知度向上を目的として 8 月 8 日に実施した。出演希望の軽音楽部を各府県より募り、選考を通過した軽音楽部によるライブを開催、及び個別応募によるパート別のクリニックを実施した。

●成果及び達成度

出演 22 校、参加者、来場者約 700 名が参加するイベントとなり、目的である本学ポピュラー関連コースの認知度の向上を図ることができた。志願者獲得に向けても本学をアピールする良い機会となり、このイベントをきっかけとした志願者確保につながっている。

●今後の展望

毎年のイベントとすることで、近畿圏に留まらず認知度の向上をさらに図り、より一層のイベントの発展及び本学ポピュラー関連専攻・コースの志願者確保につなげる。

短大コース再編に伴う入試広報活動

●要旨

作曲デザイン・コース新設の広報活動にあたり、以下のことを行った。

- ・作曲デザイン・コース新設フライヤーによる広報の実施。(楽器店、入試システムに登録のある高校生、高校、広報誌 MUSE 発送対象者などへのチラシの発送、訪問説明等)
- ・楽器店での出張オープンキャンパスを 2 回実施 (6 月 23 日、7 月 28 日)
- ・オープンキャンパスでの講座の実施 (4 月 21 日、5 月 12 日、7 月 7 日、10 月 14 日)
- ・作曲デザインコース体験講座の実施 (10 月～定期的に開催)
- ・高校での出張授業の実施 (9 月 25 日 兵庫県立太子高等学校、12 月 9 日 大阪高等学校)
- ・プロモーションビデオの作成

●成果及び達成度

オープンキャンパスやフライヤー等での案内を通じ、作曲デザイン・コースのことを周知するきっかけを作った。
(特に 7 月オープンキャンパスの新垣隆客員教授特別講座には、100 名を超える来場者があった)

また、定期的に開催している体験講座については、志願者と本学教員が会える機会と捉え、本学教員による指導とともに同コースの教育方針を伝えることにより、複数回の受講者の増加に繋がっている。

●今後の展望

2020 年度においてもオープンキャンパスや体験講座による広報を継続して実施し、今後は作成したプロモーションビデオを活用しつつ Web ページを充実させ、さらなる志願者の増加につなげていきたい。

【2】対社会事業

<エクステンション関連>

エクステンション関連事業として教員免許状更新講習を夏期期間(8月)に8講座実施し、受講者は400名であった(人数は延べ数)。

<社会連携関連>

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施している。当センターの連携関係事業は、大きく分けて社会学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

・地域社会との連携

①豊中市の主催で「第5回豊中音楽コンクール」の実施、豊中市共催で「とよなか音楽月間」等の実施、豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「市立豊中病院ランチタイムコンサート」を実施、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市、豊中市教育委員会との共催で「豊中こども音楽フェスティバル」を開催した。

②豊中市野田校区社会福祉委員会の依頼により、本学の学生サロン[ぱうぜ]を会場として「いきいきサロン」の催事名称で地域の高齢者に憩いの場を提供するとともに、本学卒業生によるコンサートも開催した。

③寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

・公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市、NPO 法人大阪府高齢者大学校等、自治体・公共団体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

- ①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」
- ②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」
- ③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介
- ④大阪府高齢者大学校：講座への講師派遣やコンサートの実施

・依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等のマネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業でもある。また近年は、在学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

DAION 座のエントリー俳優が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施する。広く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカル上演する際には、芸術面だけでなく、経済的な成功も目指し本学の名声を高めることにも繋げる。上演に備え、講師を招き、エントリー俳優らの技術を高めるためのレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等収支バランスを考えた事業展開を行っている。

●成果及び達成度

2019 年度は主に、コンサート、ワークショップを行い多くの出演依頼を頂いた。さらにクオリティを向上させて、活動展開していくための人材を募るオーディションを 4 月 27 日に実施。新たに 10 名のレッスン生を迎えた。事業等の詳細は以下のとおり。

□DAION 座 夏のワークショップ（延べ参加人数：DAION 座員 21 名、学生 69 名）

8 月 9 日、8 月 21 日（2 回）、8 月 23 日

□常翔ホールでのロビーコンサート

2 月 8 日（土）

□レッスン

4 月～3 月実施

エントリー俳優らの技術を高めるため講師を招きほぼ毎月実施

●今後の展望

2020 年度に関しては、近い将来 DAION 座自主公演実現に向けて DAION 座としての実績を積んでいくために小規模な公演（200 人～300 人規模）を行う構想がある。また自主公演に適した会場も、これまでにコンサート、ショーなどを実施した会場の中から選択していく予定である。

音楽系企業と大学就職担当者の情報交換会

●要旨

学生が卒業後就職を志望する音楽系企業の採用担当者等を本学に招き情報交換を行った。大学の概要及び専攻ごとの説明に続いて、代表学生のプレゼンテーション及び学長、担当理事、主事、キャリア支援センター担当教職員が企業担当者と懇談し、学生の就職に関する情報交換を行った。

●成果及び達成度

ミュージッククリエーションアワードのレセプションと連動し、以下の音楽家、企業関係者等と本学関係者と懇談を行い、情報の交換を通じて親睦を深めた。

<審査員長> 三枝成彰氏（作曲家）

＜審査員（7名）＞ 神田大介氏（株式会社スマイルカンパニー取締役 クリエーター事業部部長 音楽プロデューサー）、岸 智也氏（株式会社カプコン プロダクション部サウンド開発室 室長）、倉田 健次氏（映画監督／脚本家）、柄尾恒樹氏（有限会社プレストーン ディレクター・エンジニア）、中野量太氏（映画監督）、林 揚哲氏（経済産業省 中小企業庁 経営支援部 創業・新事業促進課 課長）、布花原健吉氏（株式会社 agehasprings／FOURseam ゼネラルマネージャー）

＜協賛企業（4名）＞ 株式会社ゲオホールディングス取締役専務小坂氏・谷氏、株式会社博報堂 萩原氏、有限会社樂八 代表取締役社長北森氏

＜キャリア支援センター枠企業（7名）＞ 株式会社スクエア・エニックス ディレクター宮永氏・村井氏、株式会社ミリカミュージック 代表取締役山田氏・取締役総務部長大川氏、株式会社スターラップコーポレーション 代表取締役上野氏・取締役岡田氏・北良氏

●今後の展望

2020年度もミュージッククリエーションアワードと連動しレセプションを実施する。ミュージッククリエーション専攻の審査員、ゲスト枠に加えキャリア支援センターから音楽系企業関係者をゲストとして招き、学生のキャリア支援に繋がるよう、関係性を構築する。

●助成金等

ミュージッククリエーションアワードに、株式会社ゲオホールディングス、有限会社樂八からご協賛金をいただいた。

Daion100 周年記念倶楽部

●要旨

本学の卒業生で、吹奏楽の分野で活躍している中学・高校の教諭との交流を深めるため、Daion100 周年記念倶楽部を学生サロン「ぱうぜ」2階で開催した。本学の取り組みについて説明するとともに、本学に対する意見や要望を聴取した。

●成果及び達成度

本学が取り組んでいる音楽を通じた社会との連携・貢献・発信の新たな可能性が見出され、また本学の存在意義を社会にアピールすることができた。

●今後の展望

今後も Daion100 周年記念倶楽部を継続し、本学の卒業生と強固なネットワークを形成しながら、社会との連携を重視した大学運営に結び付ける。

豊中夢の第九コンサート

●要旨

社会奉仕団体である豊中南ロータリークラブの創立 50 周年記念事業の一環として本学へ運営協力の依頼があり、協賛／大阪音楽大学、後援／豊中市とし、“豊中のまちに夢と感動を”をテーマに開催した。演奏曲はベートーヴェン作曲の「交響曲第九番 合唱付き」で、演奏者は下記の方に依頼し、コーラスは豊中市民限定で公募した。

指揮：新通英洋 ソリスト：並河寿美(ソプラノ)、西原綾子(アルト)、藤田卓也(テノール)、迎肇聡(バリトン)

演奏：豊中夢の第九合唱団、大阪音楽大学管弦楽団

●成果及び達成度

コーラスの募集人数を 100 名に設定していたが、137 名という多数の応募があり、注目度の高さが窺えた。全員が安全に舞台上がれるよう調整していたが、12 名が辞退されたため、最終的に 125 名が舞台に上がった。

社会に向けた音楽による連携・貢献に取り組むことができ、教育活動の一環としても実施できた。また、今回は

前豊中市長の浅利敬一郎氏と、現豊中市長の長内繁樹氏が合唱団の一員として参加し、市民、本学学生と共に演奏する等、充実した内容であった。

●今後の展望

社会と大学をつなぐ演奏会を企画し、社会連携を重視した大学運営に結び付けるようにする。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006年から事業を展開している。豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を、2019年度は87件（こども園13件、小学校52件、中学校22件）実施し、延べ896名の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。経費については、豊中市教育委員会とこども未来部においてそれぞれ予算化がなされた。

●成果及び達成度

昨年度に引き続き、吹奏楽・合唱の指導や授業支援演奏会など同等の内容で依頼を受け、多くの学生が経験を重ねることができ、小学生、中学生にも好評であった。豊中市内の小学校41校、中学校18校、合計59校のうち、サウンドスクール事業の実施校は36校あり、実施したすべての学校より、教育活動への効果について「役立った」、「次年度も本事業を実施したい」との報告を受けた。

●今後の展望

実施した学校からの肯定的な意見を未実施校へ伝え、実施校の拡大を図りたい。

豊中こども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ、豊中市、豊中市教育委員会と連携協力して開催した。音楽を通じてこどもたちの感性を育むことを目的に、豊中市内で活躍する中学校・高等学校が出演する演奏会で、こどもたちが中心となり舞台上で演奏や演技を披露、客席の大人とこどもが一緒になって楽しめるイベントとして実施している。

●成果及び達成度

豊中市の政策である「音楽あふれるまち とよなか」の一環として毎秋に「とよなか音楽月間」が展開されているが、毎年この演奏会を皮切りにスタートしており、重要な位置づけとなっている。市民はもちろんのこと、市外の方々にも定着しており、豊中市の文化資源を市内外にアピールできている。

●今後の展望

文化芸術活動に取り組むこどもたちの発表の場として、こどもたちの目標となる演奏会をめざし、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう引き続き運営する。

第5回豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015年度から豊中市と共催で、2019年度からは豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は2019年度より運営を委託されている。学内施設で6月15日・16日に予選、6月30日にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を開催した。

部門は高校と大学・一般があり、それぞれにピアノ、声楽、管弦楽器の各部門を設け（高校の部は管楽器部門と弦楽器部門に分かれる）、定員は各30名、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々に依頼して行われた。上

位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者（1名）は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

高校の部 101 名、大学・一般の部 123 名という、多数の応募をいただいた。コンクールビジネスが横行する中、真に実力を問うコンクールとして着実に支持が増えている。また、本選では多数の一般来場者があり、華やかな審査会場の中で充実したコンクールとなった。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2020 年 6 月 6 日・7 日に予選、6 月 21 日に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方々にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとしてさらに発展できるものとする。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇ノ発生地タラン」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否、日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を 3 度受賞したのを始め、モービル音楽賞（現、J X T G 音楽賞）の本賞や三菱 U F J 信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立 100 周年目に当たる 2015 年度に、「創立 100 周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言っても良いオペラ「ファルスタッフ」を、例年より予算をかけて上演したことや、過年度から創立 100 周年以降のオペラハウスにおける主催オペラ公演の在り方を見直すという計画が理事会より発表されていたこともあり、2016 年度は主催オペラ公演を休止し、2017 年度以降の公演計画について検討する年とした。その結果 2017 年度からは、井原広樹、栗國淳、岩田達宗の 3 名の客員教授を年替わりで演出に起用し、3 年にわたる「ディレクターズチョイス」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを、理事会の承認を得て決定した。2017 年度には井原広樹演出、牧村邦彦指揮でモーツァルトの《偽の女庭師》を上演、2018 年度は栗國淳演出、森香織指揮でメノッティの《テレフォン》《泥棒とオールドミス》を上演、そして、同シリーズの掉尾を飾る 2019 年度は岩田達宗演出、牧村邦彦指揮でベッリーニの《カプレーティとモンテッキ》を上演し、いずれも高い評価を得た。

ザ・カレッジ・オペラハウスは、教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。例えば、大学主催演奏会として 12 公演（16 件）開催し、7,769 名が入場した。また、学生の自主公演として開催されている授業の延長にあるコンサート等を 11 公演開催し、3,479 名が入場した。さらにクラシック系の専攻で学ぶ学生は、卒業実技試験の際、この舞台で必ず演奏の機会を持つことになっており、2019 年度は 30 回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され、1,685 名が入場した。その他にも、付属幼稚園の公演が 2 回行われ 848 名の入場者を得た。またオープンキャンパス、講座やセミナー、入学式、卒業式、共催事業など多岐にわたる事業が実施され、13 件で 4,571 名の入場者があった。他に共催（協賛）事業が 2 件（内 1 件は無観客）で 541 名の入場があった。その結果、年間催事総数は 74 件、総入場者数は 18,893 名、総稼働日数は 212 日に及んだ。

ただ、世界的な感染拡大で今後の終息が全く見通せない状況となっている新型コロナウイルスの拡大初期であった 3 月に、公演を数件中止または延期せざるをえなかった。この中止（延期）公演の中にはザ・シンフォニーホールにおける大学吹奏楽演奏会を始めとして、ザ・カレッジ・オペラハウスにおける卒業演奏会、卒業式も含まれ、特に卒業学年の学生にとっては残念なこととなった。

また、専属のザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に 5 件 9 回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。2019 年度には、文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡

回公演事業)」を担い、富山、京都の1県1府で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を各22回開催した。巡回公演の実施は、本学の名を広く北陸や京丹後地方にも知らしめる成果を収めている。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第55回定期演奏会

●要旨

学校法人主催によるオペラハウス管弦楽団単独のステージ・コンサートを開催した。

2019年6月22日（土）18時開演

《プログラム》

W.A.モーツァルト 歌劇「魔笛」K.620 序曲

A.グラズノフ アルト・サクソフーン協奏曲 変ホ長調 サクソフーン / 崔 勝貴

J.ブラームス 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮：瀬山 智博

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

●成果及び達成度

本演奏会は演奏曲目に協奏曲を取りあげ、その奏者を大学院生の中からオーディションにより優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献している。また、オーケストラ奏者養成機関の要素も取り入れて再出発した楽団理念（循環型の教育オーケストラ）に基づき、コアメンバー（本学卒業生のオーディション合格者）にステージ上での演奏機会を与える重要な研修の場も担っている。

観客動員数については会場定員の6割以上の観客動員を目指した目標を大きく上回り、689名（会場定員の9割以上）の来場者があり、プロのオーケストラを擁しているという本学のアピールポイントの周知促進にもつながった。

●今後の展望

今後もコアメンバーに対し、主催演奏会への出演機会を増やし、多くの曲目経験を積ませることで、メジャーオーケストラの採用オーディションに合格できる実力を養成することや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませる機会とする。また、オペラハウス管弦楽団の特色を反映したプログラム作りに努めていく。

オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

外部団体から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が出張演奏を実施した。2019年度は5公演9回の出張演奏を行った。

4月27日・28日 「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2019」かがり火コンサート／モーツァルト「レクイエム」

9月21日・22日 関西歌劇団第100回定期公演／ペルゴレージ「オリンピーアデ」

10月5日・6日 みつなかオペラ／チマローザ「秘密の結婚」

12月7日 中村恵理ソプラノ・リサイタル

2020年1月11日・12日 堺シティオペラ／ヴェルディ「アイーダ」

●成果及び達成度

依頼演奏は大学の広報活動の一端を担っている。また、2016年度から運営体制を一新し、循環型の教育オーケストラとして楽団員の研修も行いながらプロの管弦楽団として活動しており、その成果は徐々に表れてきている。今後もオペラ演奏の質の高さについて、依頼団体から得ている信頼を損なわないように向上に努め、関西のオペラ界に欠かせない存在となるよう努力する。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼件数が減少傾向にあるが、オペラ公演等において、演奏の質を一層高めることで、より多くの依頼演奏を受けられるよう努めたい。

文化庁巡回公演事業

●要旨

この事業は、小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、こどもたちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。学校法人大阪音楽大学自らが制作団体となり、公演団体をザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団として 2010 年度から実施しており、2019 年度は 10 年目となる。2019 年度は、富山、京都府の 1 県 1 府において、小学校 11 校、中学校 1 校（うち 1 校は同一地域小学校と合同開催）で公演を実施した。

●成果及び達成度

本公演の開催にあたり、事前に公演に関するワークショップを行い、オーケストラの説明や楽器紹介・ミニコンサートなどを実施した。また、児童・生徒との共演の演目では事前に実演指導を行い、本公演に向けてこどもたちの関心を高めた。本公演では、オーケストラの演奏を鑑賞するだけでなく、床から伝わる音の振動による体育館ならではの臨場感の体験、プロのオペラ歌手の歌声に触れる機会、指揮者体験コーナーや共演コーナーによるオーケストラとこどもたちとのコラボレーションなども実現できた。

●今後の展望

2020 年度も本事業の採択を受けており、岐阜県、愛知県、神奈川県、静岡県の 4 県において、9 公演の実施が予定されている。今回は 2 校を除いて小学校が対象となっており、低年齢層に生の音楽の魅力を伝える有意義な機会とするとともに、本学の広報活動の一翼を担う公演としたい。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

外部団体等から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団が出張演奏を実施しているが、2019 年度は、次の 1 公演の依頼を受けた。

10 月 24 日 日本センチュリー交響楽団 第 239 回定期演奏会

●成果及び達成度

日本センチュリー合唱団との合同練習の日程調整を綿密に行い、練習を滞りなく終えて、公演を成功させることができた。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼公演数が減少傾向にあるが、公演の種類を問わず多くの依頼を受けることにより、オペラハウス専属の合唱団としての実力を示すよう努めたい。

オペラ公演

●要旨

制作者と演出家が綿密に協議して演目を決定し、限られた予算の中で最高のものを追求する「ディレクターズチョイス」シリーズの第 3 弾として、ザ・カレッジ・オペラハウス初のイタリア・ベルカント・オペラとなる V. ベッリーニの傑作「カプレーティとモンテッキ」を上演した。

●成果及び達成度

岩田達宗の演出は、シェイクスピアが脚色したロメオとジュリエットの悲恋物語という点に焦点を当てるのではなく、あくまでイタリアに伝わる原典の意図を重視したカブレーティ家とモンテッキ家の長年にわたる対立と、その愚かさを明らかにするものであった。両家の政治的対立が、ひいては人間どうしの感情的対立や憎しみへと繋がっていく過程と、そうした反目が本来政治的な対立などと関係なかった人たちにも悲劇をもたらすという現代にも通じる人間の愚かしさを告発、戒めることに岩田の演出の目論見があり、その演出意図は、簡潔ながら悲劇を見事に象徴する舞台と大阪音楽大学の卒業生からなる歌手陣による高い歌唱力と磨かれた演技力によって見事に表現された。ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団もベッリーニの音楽の面白さを再認識させる圧倒的な好演をし、また教育的観点から今回初めて起用した現役学生による男声合唱も幕開きから高い集中力を持って迫真的な素晴らしい演唱を展開した。「関西音楽新聞」2019年12月1日号や「音楽の友」2020年1月号においても、高い評価とともに「現代的な問いも投げかけた」といわれるように現代にも通ずる問題提起を多く含む舞台となり、多くの聴衆から、オペラを見る新しい意義を発見したと言って頂けたのは嬉しいことであった。

●今後の展望

ザ・カレッジ・オペラハウスは、これまでもなかなか上演されにくい20世紀オペラなど、興行的には極めて厳しい条件下にあるものを多数上演し、高い評価を得てきたが、いつも集客には非常に苦労している。今回のベッリーニの作品は、感情の対立、憎しみ、人間の愚かさがテーマの中心で、血の赤色を使用した斬新な舞台で、聴衆の方にインパクトのある作品ではあったが、表題の知名度の低さで集客には苦労を予想した。しかし今回、大阪府下の高等学校から1年生全員約500名に本物のオペラを鑑賞させたいとの申し出があり、初日(11月1日)は集客率が約95%と前年を大きく上回ることになった。一般客が二日目(11月3日)に集中せざるを得なくなったこともあり、二日目も約81%と例年に比べ集客率は上回った。今後も大学という教育機関として意義ある作品を上演していきたいと考えているが、一般客に周知し集客する努力はもちろん、今後のオペラ鑑賞人口を拓けるためにも、高校生などの若年層にオペラ入門として鑑賞してもらえるような工夫も重ねる必要があると考えている。

●公的助成・民間助成について

本公演実施にあたり、次の団体より助成金をいただいた。

- ・独立行政法人 日本芸術文化振興会
- ・公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団
- ・公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
- ・公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団
- ・公益財団法人 花王芸術・科学財団
- ・公益財団法人 朝日新聞文化財団

【4】付属音楽院

2019年度の教養講座の受講者数は2018年度とほぼ同数であったが、近年は減少傾向にある。受講生の高齢化が原因の一つと考えられる。受講生の増加を図るため新たな講座の立ち上げや、付加的なサービスの検討が必要である。こども音楽講座の受講生は2018年度比で18%増加し、なかでもピアノのキッズレッスン、キッズミュージカルが人気となった。2020年度からはジュニアオーケストラを立ち上げる計画であるが、他コースについても社会の要請に沿った講座開設を検討したい。マンツーマンレッスンの受講生は微増であったが、こども音楽講座の受講者増加は、ホームページを中心とした広報戦略が功を奏したと考えられる。

ホームページについては表記の統一を図るとともに、講師一覧の体裁や全体的な見易さの観点から更なる改善が必要である。進学コースの在籍者数は21名であり、2020年4月にその内12名が本学の大学・短大へ入学した。マンツーマンレッスンの受講者が本学に入学する場合もあるが、進学コースとして一定の役割を果たしている。

さくら夙川校の運営面では西宮以西の受講者の拡大に努めているが目標値の達成には至っていない。さくら夙川

校の地域性や音楽教育に関する需要を着実に把握し、顧客のニーズを重視した営業展開を行うとともに、音楽院と大学・短大を併せた PR を継続する。

こども音楽講座の新規会員数拡充・定着率向上のための事業

●要旨

標記事業及びその一環として、こども音楽講座無料体験（4月13日）、こども担当講師に向けた指導者研修（11月30日）、本学教員による受講生のためのマスタークラス（12月7日、12月14日、12月21日）を実施した。

2020年3月に中学生以下の受講生の発表会「ミュージックカーニバル」を4日間実施する予定であった（2020年3月14日グループ講座、3月15日キッズレッスン（ヴァイオリン・チェロ・マリンバ）、3月20日キッズレッスン（ピアノ）、3月31日キッズミュージカル発表会）が、新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止した。

●成果及び達成度

毎年4月に実施しているこども音楽講座無料体験は好評を得ている。2019年度の無料体験は講座（グループ受講）のみの実施とし、無料体験者の内20名が新規会員となった。指導者のための幼児・こどもへの音楽指導法に関する研修では、同分野の音楽教育を専門とする井本英子氏を講師に招いて開催したところ好評であったため、今後も定期的に実施していきたい。

キッズレッスン受講生（Pf. Vn. Vc.）を対象に、大学教員によるマスタークラス（12月7日木田雅子教員、12月14日藤井快哉教員・油井美加子教員、12月21日上塚憲一教員）を実施した。受講は無料であり、日々のレッスンとは異なる観点からのアドバイスを得られること、また大学教員からレッスンを受けられる付属音楽院ならではの制度が大変好評だったため、次年度も継続して実施する計画である。

ミュージックカーニバル（発表会）では、以下のイベントを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全て中止した〔2020年3月14日グループ講座、3月15日キッズレッスン（ヴァイオリン・チェロ・マリンバ）、3月20日キッズレッスン（ピアノ）、3月31日キッズミュージカル発表会〕。

●今後の展望

こどもの音楽教育に重点を置いたこれまでの実績を踏まえ、無料体験講座、ミュージックカーニバル（発表会）、マスタークラスを継続して実施する。大学附属機関の特色を全面に出した企画の実施や新規講座を開設するとともに、音楽院の特色となるレッスンのあり方を再検討し、受講生の満足度の向上に努める。

進学コース充実、改革のための事業

●要旨

- ・ Daion Piano Grade（6月30日実施）
- ・ 進学コース特典（入学お祝い金、音楽院賞の贈呈）

●成果及び達成度

Daion Piano Grade は、本学ピアノ部会の主導のもとに始まったグレードテストを前身とする。今年度は、6月30日に本学教員が審査員となり実施し、9名が受験した。本グレードの周知方法、グレード取得後の特典など、今後の検討が必要な課題がある。

2019年度の進学コースには、高校1～3年生まで21名が在籍し、高校3年生14名中12名が本学に入学した。進学コースのカリキュラムを通じて入学前に音楽基礎科目を着実に身に付けておこうとする受講生が増加し、入学後のスムーズな学修にもつながっている。

●今後の展望

2020年度からの進学コースは、新入試制度にきめ細かな対応ができる3つのコースを設定した。進学コース受講者には、入試科目の指導に加えて、入試制度についても説明するなど、丁寧な対応を行っている。今後は入試事務

部門との連携を一層深め、新規事業等に関する相談と情報交換を綿密に行うとともに、音楽院が提携している 2 つの音楽教室との連携を深め、進学コース受講者の増加につなげたい。

Daion Piano Grade については、ピアノ部会と協議し、今後の方向性を検討したい。

外部施設（さくら夙川校）を活用した事業

●要旨

「すべての人に音楽を学ぶ楽しさを」を理念に開校したさくら夙川校は 3 年目を迎えた。キッズスペースや授乳室、おむつ交換台など、乳幼児を伴う場合も安心して利用できる環境を整えるなど、庄内校とは異なる顧客ニーズへの対応を推進した結果、受講生はのべ 100 名を超えたが、まだ目標値には達していない。

主たるイベントとして、0 歳からのファミリーコンサート（4 月 6 日、8 月 10 日、2 月 1 日の計 3 回）、リトミックレッスン（月 2 回、計 24 回）、サロンコンサート（4 月 17 日、5 月 19 日、6 月 29 日、9 月 1 日、10 月 27 日の計 5 回）、本学教員による受講生のためのマスタークラス（12 月 15 日、12 月 22 日の計 2 回実施）を実施した。

●成果及び達成度

0 歳からのファミリーコンサートについては、西宮市近辺での需要は非常に好調であり、さくら夙川校の広報素材としても十分な効果を発揮している。（計 3 回の総受講者数：566 名、内 0 歳～3 歳 216 名、4 歳以上 322 名）

1～2 歳児を対象とした 1 回完結型のリトミックレッスンは、毎月 2 回実施し、ホームページ等への開催情報の掲載直後に満席になるほどの好評を得た。また、音楽が幼少期のこどもへの音楽の影響に関する保護者の理解促進にもつながった（年間総受講者数：1145 名）。

サロンコンサートは、大学教員、音楽院講師を中心に 12 回実施した。未就学児も対象とする午前の部は満席になるが、就学児以上を対象とする午後の部は集客に苦戦している。「演奏を間近に聴くことができる 40 名収容のアットホームで響きの良いサロン」でのコンサートをコンセプトに広報展開のあり方を再考する。（年間総入場者数：未就学児 60 名 小学生以上 244 名）。

キッズレッスン受講生（Pf. Vn.）に対して大学教員によるマスタークラス（12 月 15 日油井美加子教員、12 月 22 日木田雅子教員）を実施した。

●今後の展望

音楽院による音楽に係る文化事業の周知と新規企画の開発により、新規受講生の一層の拡大を図るとともに、西宮市文化振興課と協力関係を深めながら、さくら夙川校単独で採算が取れる受講生数を確保する。また、入試事務部門や広報室とも連携し、大学の PR も含めた広報展開をさらに強化する。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2019 年度も本学の取組みに関する効果的な情報発信を目指し、各種媒体・機会の活用による広報展開の強化を図った。

ホームページや SNS では、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。短大のコース改編に伴い 2020 年度から始まる 3 つの新コース（作曲デザイン、ヴォーカルパフォーマンス、ポピュラーインストゥルメント）を中心に各専攻・コースの魅力、取り組みを紙媒体、動画などで広くアピールした。

広告においては、ターゲットやエリアを絞った Web 広告を活用するなど、時代に合わせた広報展開を行った。

その他、広報誌・リーフレット・チラシなどの紙媒体、イベント出演、マスメディアへの掲出など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動について

●要旨

本学・各専攻・コースの認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、建学の精神、教育理念を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

ホームページ、SNS などのインターネットの活用、広報誌・チラシなどの配布、マスメディアや Web 上での広告掲出、商業施設でのイベント出演など、広報媒体や宣伝機会ごとの特性に応じ多角的に情報を発信した。特に、2020 年度からの短大のコース改編に伴う 3 つの新コースについては、チラシや広告、PR 動画による積極的な広報を展開した。また、ミュージックコミュニケーション専攻やミュージッククリエーション専攻の新たな取り組みを本学の広報誌で取り上げ、併せて記者発表を行った結果、新聞等に掲載されることになり、社会の注目を集めた。歴史と伝統を尊重しながらも、時代の変化に対応する本学の姿を様々な媒体を通して広く社会にアピールできたことは大きな成果であった。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用し、本学の新たな取り組み、各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来 100 年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、入試広報等にも繋げていくものとする。

【2】施設・設備

事業計画に基づき、既存施設・設備のリニューアル工事及び幼稚園と学生寮の共用正門改修工事等を行い、教育環境の充実に努めた。また、水銀灯の製造禁止に伴う LED 照明器具への全面的な更新を行った。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

耐震対策及び経年劣化対策に必要な工事を行うことで既存施設設備の維持・延命を図り、また、新たな短大コースの開設等に伴い、教育環境の整備に係るリニューアル工事を行った。

●成果及び達成度

主に授業のない時期を利用し、次の各種施設設備におけるリニューアル工事等を実施した。

- ・ L 号館（オペラハウス）の天井（非構造部材）耐震改修に向けた設計及び屋上防水、サイドスポット更新
- ・ B 号館 4F 教室の音響卓更新
- ・ A 号館の受変電設備改修及び 2F 事務室（総務事務部門、経理室）の改装
- ・ D 号館の空調設備更新及び 1F 教室の改装（大学ミュージックコミュニケーション専攻学生増加に伴うスペースの確保）
- ・ K 号館 4 階教室の統合・改装（短大作曲デザインコースの開設のため）
- ・ N 号館事務室（連携・演奏事務部門、入試事務部門）の改装
- ・ O 号館の外壁補修
- ・ P 号館の非常放送設備、火災報知器及びミレニアムホールの音響卓更新
- ・ 付属音楽幼稚園の空調設備更新

●今後の展望

中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ施設・設備の維持、延命及び教育環境の整備に努める。

幼稚園、学生寮正門改修工事

●要旨

付属音楽幼稚園及び学生寮の入口付近における安全基準を満たしていないブロック塀を撤去するとともに、フェンス施工を含む正門改修工事を行った。

●成果及び達成度

8月を中心に改修工事を実施し、当初の予定どおり完了した。

●今後の展望

ブロック塀関連の安全対策については概ね終了した。今後も安全最優先の意識を徹底し、安全対策に取り組んでいきたい。

●補助金

ブロック塀の安全対策工事にあたり、私立幼稚園施設整備費補助金を受けた。

既存システムの更新

●要旨

既存の会計システムを更新し、性能の向上と機能改善により事務効率化を実現した。

●成果及び達成度

長期使用により、近年ではアクセス集中やデータ不整合により業務が停止することが多くなっていたが、システム更新により業務の停止が大幅に減った。

●今後の展望

図書館システムを更新する。また、遠隔授業に必要なシステム確立のための企画・提案を行う。

【3】法人の運営

「将来構想実現検討・諮問委員会」は、18歳人口の減少と本学を取り巻く厳しい環境を踏まえ、本法人の継続的发展と財政の安定を中心に、具体的な将来像について検討・議論を行い、最終答申を取りまとめた。「新規事業開発室」は将来構想実現検討・諮問委員会の最終答申に対する常任理事会としての決議に基づき新たに設置され、同開発室が中心となり入学者数の増加を目途とする「短大の再編 及び 一部短大コース、大学専攻の改編」を主なテーマとに検討を進めた結果、当初の予定を前倒し、2021年度に大学「ヴォーカルパフォーマンス専攻」と「ポピュラーインストゥルメント専攻」を開設することを理事会において決定した。

「100周年記念館」が2016年に竣工したことに伴い、2017年度から既存の校舎・設備の老朽化対策工事の時期に入り、この改修工事は2019年度も継続することになった。幼稚園、学生寮正門改修工事、水銀灯の製造禁止に伴うLED照明器具への全面的な更新等を実施した。

今年度は理事会を4回、評議員会を4回開催した。理事会において決定した学校法人の業務並びに理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を22回開催し、延べ161件の議題を審議した。各役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を4回開催した。

今年度の教職員数は594名（平均年齢49.8歳）、内専任教員は62名〔大学・短大50名（平均年齢55.0歳）、付属音楽幼稚園教諭12名（平均年齢33.3歳）〕、専任職員72名（平均年齢42.5歳）・（内1名非常勤教員兼務）、非常勤教員425名（平均年齢51.2歳）・（内1名専任職員兼務）、非常勤職員36名（平均年齢46.7歳）。この内年度中の退職者は48名（専任教員1名、専任教諭4名、専任職員13名、非常勤教員18名、その他12名）であった。

新たな専攻・コース設立実現に向けた事業運営（将来構想検討）

●要旨

「将来構想実現検討・諮問委員会」の答申に基づき、入学者数の増加を目途に既存専攻・コースの充実と、新たな専攻・コース設立を模索する。

●成果及び達成度

本事業の推進的な役割を担う新規事業開発室を新たに設置し、学内外の関係者からの助言も踏まえ情報収集を重ね、今後の将来を見据えた検討を行った。

●今後の展望

具体的提案に向け、人的ネットワーク及び学内体制の構築を図る。

III 財務の概要

1. 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産	15,396,736	17,207,612	17,329,707	16,814,352	16,261,224
流動資産	1,893,276	932,263	834,570	605,998	608,269
資産の部合計	17,290,012	18,139,875	18,164,277	17,420,351	16,869,493
固定負債	2,254,008	2,937,984	2,776,351	2,592,928	2,436,645
流動負債	409,107	454,894	269,140	255,918	257,995
負債の部合計	2,663,115	3,392,878	3,045,491	2,848,847	2,694,640
基本金	18,661,272	18,570,755	17,781,667	17,880,179	17,974,228
繰越収支差額	-4,034,375	-3,823,758	-2,662,881	-3,308,675	-3,799,376
純資産の部合計	14,626,897	14,746,997	15,118,785	14,571,504	14,174,852
負債及び純資産の部合計	17,290,012	18,139,875	18,164,276	17,420,351	16,869,493

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産構成比率	固定資産				
	総資産	89.0	94.9	95.4	96.4
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。					
流動比率	流動資産				
	流動負債	462.8	204.9	310.1	235.8
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。					
総負債比率	総負債				
	総資産	15.4	18.7	16.8	16.0
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。					
前受金保有率	現金預金				
	前受金	482.5	206.1	712.4	573.8
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。					
特定資産構成比率	特定資産				
	総資産	20.8	20.1	30.3	27.2
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標。					

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金収入	2,104,502	2,081,524	2,065,766	2,104,847	2,182,814
手数料収入	17,646	18,309	17,809	16,791	17,166
寄付金収入	83,149	78,780	36	11,496	11,000
補助金収入	328,286	355,167	278,465	302,423	206,354
資産売却収入	182,664	191,910	2,603,488	233,734	103,623
付随事業・収益事業収入	154,622	149,154	164,352	170,519	170,080
受取利息・配当金収入	199,568	122,978	189,024	140,263	108,794
雑収入	370,357	281,286	163,329	207,975	237,479
借入金等収入	648,000	880,000	0	0	0
前受金収入	316,200	91,860	92,130	84,880	89,060
その他の収入	947,097	1,050,170	739,567	854,411	2,178,801
資金収入調整勘定	-491,598	-358,075	-378,600	-159,407	-177,209
前年度繰越支払資金	1,372,353	1,525,701	654,095	656,320	530,632
収入の部合計	6,232,846	6,468,764	6,589,461	4,624,252	5,658,593

(単位：千円)

支出の部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
人件費支出	1,939,995	1,761,546	1,746,912	1,834,563	1,836,605
教育研究経費支出	731,939	688,931	809,868	674,011	731,694
管理経費支出	278,591	286,512	331,641	334,156	332,065
借入金等利息支出	0	2,263	3,664	3,472	6,227
借入金等返済支出	0	54,760	59,720	98,220	100,720
施設関係支出	784,741	1,649,413	232,044	290,847	116,463
設備関係支出	75,106	151,042	79,499	92,934	100,501
資産運用支出	305,862	688,166	2,204,861	292,833	1,416,222
その他の支出	624,839	568,304	514,122	509,511	549,575
資金支出調整勘定	-33,928	-36,268	-49,190	-36,927	-42,062
翌年度繰越支払資金	1,525,701	654,095	656,320	530,632	510,584
支出の部合計	6,232,846	6,468,764	6,589,461	4,624,252	5,658,593

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,900,949	2,773,563	2,654,281	2,779,461	2,824,371
教育活動資金支出計	2,950,525	2,736,990	2,888,421	2,842,730	2,900,364
差引	-49,576	36,573	-234,140	-63,269	-75,993
調整勘定等	-208,956	156,783	18,536	-58,322	-12,912
教育活動資金収支差額	-258,532	193,356	-215,604	-121,591	-88,904
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	164,566	208,731	2,294,056	201,088	520,080
施設整備等活動資金支出計	859,847	1,917,168	311,543	383,782	566,939
差引	-695,281	-1,708,437	1,982,513	-182,694	-46,859
調整勘定等	168,374	-76,159	-29,175	34,900	0
施設整備等活動資金収支差額	-526,907	-1,784,596	1,953,338	-147,794	-46,859
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	-785,439	-1,591,239	1,737,734	-269,385	-135,763
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,805,975	1,870,337	1,006,124	1,000,671	1,804,382
その他の活動資金支出計	867,187	1,150,704	2,741,633	856,704	1,688,215
差引	938,788	719,633	-1,735,509	143,967	116,167
調整勘定等	0	0	0	-270	-451
その他の活動資金収支差額	938,788	719,633	-1,735,509	143,697	115,716
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	153,349	-871,606	2,225	-125,688	-20,047
前年度繰越支払資金	1,372,353	1,525,701	654,095	656,320	530,632
翌年度繰越支払資金	1,525,701	654,095	656,320	530,632	510,584

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

ウ) 財務比率の経年比較

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動資金収支差額 比率	-8.9	7.0	-8.1	-4.4	-3.1
教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出しているかを測る比率。					

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,104,502	2,081,524	2,065,766	2,104,847	2,182,814
	手数料	17,646	18,309	17,809	16,791	17,166
	寄付金	4,058	3,000	424	11,497	11,000
	経常費等補助金	253,812	240,289	243,025	267,832	205,832
	付随事業収入	154,622	149,154	164,352	170,519	170,080
	雑収入	370,357	281,287	163,329	207,975	237,479
	教育活動収入計	2,904,997	2,773,563	2,654,705	2,779,461	2,824,371
	事業活動支出の部					
	人件費	1,852,748	1,686,841	1,680,999	1,751,860	1,778,542
	教育研究経費	988,039	929,333	1,098,108	972,436	1,039,590
	管理経費	316,325	318,742	356,967	357,331	362,154
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	3,157,112	2,934,916	3,136,074	3,081,627	3,180,286
	教育活動収支差額	-252,115	-161,353	-481,369	-302,166	-355,915
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	199,568	122,978	189,024	140,264	108,794
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	199,568	122,978	189,024	140,264	108,794
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	2,263	3,664	3,472	6,227
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	2,263	3,664	3,472	6,227
	教育活動外収支差額	199,568	120,715	185,360	136,792	102,567
	経常収支差額	-52,546	-40,638	-296,009	-165,374	-253,348
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	106,007	45,655	1,439,327	124,278	37,210
	その他の特別収入	157,613	195,411	36,972	38,367	36,374
	特別収入計	263,620	241,066	1,476,299	162,645	73,584
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	455,184	80,328	808,502	544,552	216,887
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	455,184	80,328	808,502	544,552	216,887
	特別収支差額	-191,564	160,738	667,797	-381,907	-143,303
	基本金組入前当年度収支差額	-244,110	120,100	371,788	-547,282	-396,651
	基本金組入額合計	-3,550	-61,483	0	-98,512	-94,049
	当年度収支差額	-247,661	58,617	371,788	-645,794	-490,701
	前年度繰越収支差額	-3,786,714	-4,034,375	-3,823,758	-2,662,882	-3,308,675
	基本金取崩額	0	152,000	789,088	0	0
	翌年度繰越収支差額	-4,034,375	-3,823,758	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376
(参考)						
事業活動収入計		3,368,185	3,137,607	4,320,028	3,082,369	3,006,749
事業活動支出計		3,612,296	3,017,507	3,948,240	3,629,651	3,403,400

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金					
	経常収入	67.8	71.9	72.6	72.1	74.4
学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の帰属収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。						
人件費比率	人件費					
	経常収入	59.7	58.2	59.1	60.0	60.6
人件費の経常収入に占める割合。						
教育研究経費比率	教育研究経費					
	経常収入	31.8	32.1	38.6	33.3	35.4
教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には消耗品費、光熱水費、旅費交通費、委託費、修繕費等の各種支出に加え教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。						
管理経費比率	管理経費					
	経常収入	10.2	11.0	12.6	12.2	12.3
経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。						
補助金比率	補助金					
	事業活動収入	9.7	11.3	6.4	9.8	6.9
国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。 補助金：経常費等補助金＋施設設備補助金						

2. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は5,658,593千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,182,814千円、補助金収入 206,354千円、付随事業・収益事業収入 170,080千円、前受金収入 89,060千円である。資金支出の合計は5,658,593千円で、主な科目の内訳は、人件費支出1,836,605千円、教育研究経費支出 731,694千円、管理経費支出 332,065千円、資産運用支出 1,416,222千円である。2019年度の翌年度繰越支払資金は 510,584千円となり、前年度繰越支払資金より20,047千円減少した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,824,371千円であり、学生生徒等納付金比率は 74.4%となる。教育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価償却額を含む）等の合計で、3,180,286千円であり、人件費比率は 60.6%となる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 355,915千円の支出超過、教育活動外収支差額は 102,567千円の収入超過、経常収支差額は 253,348千円の支出超過となった。特別収支差額は143,303千円の支出超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 396,651千円の支出超過となった。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額 94,049千円を差し引きした結果、当年度収支差額は 490,701千円の支出超過となり、前年度までの支出超過累積額3,308,675千円を差し引きした結果、翌年度繰越収支差額は 3,799,376千円の支出超過となった。

貸借対照表上の2020年3月31日における財政状態は、資産 16,869百万円、負債 2,695百万円となっている。（詳細については2019年度決算説明をご参照ください。）

2019年度は、2016年度に開設したミュージッククリエーション、ミュージックコミュニケーション両専攻が完成年度を迎え、学生募集も良好に推移する等の一定の成果があった。一方で、既存のクラシック系専攻にお

いては学生数の伸び悩みも顕著となっている。今後も、教育プログラム改革、教育環境整備、学生支援充実等を軸とした改革施策を推進するための投資を継続していくことで進学者数の増加を確保し、中長期的な財政安定化を実現する。

このほか、「将来構想実現検討・諮問委員会」から「新規事業開発室」へと引き継がれた課題のひとつである音楽産業界の求める人材を育成・輩出することを目途とする「音楽マネジメント」と「音楽ビジネス」の分野を包含した新専攻の2022年度開設にむけて、継続して実現の可能性を追求する。

▼2019年度 法人の動き

日付	内容	場所
<A. 教育・研究事業>		
2019年4月1日	入学式(大学短大合同)	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月1日	キャリア支援(進路・就職)に関する新入生保護者対象ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月2日	教員採用試験説明会【大阪府・豊能地区】	キャリア支援センター
4月3日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
4月4日	保育士資格試験対策講座ガイダンス	B205教室
4月5日	教員採用試験説明会【神戸市】	キャリア支援センター
4月6日	音楽幼稚園 第52回入園式	音楽幼稚園
4月11日	音楽教室講師採用説明会【カワイ音楽教室 編】	A303教室
4月12日	河合楽器製作所 社員(総合職)採用説明会	B101教室
4月12日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
4月15日	名刺講座 [他 4/19] 年10回 開催	キャリア支援センター
4月19日	第38回(夏期)インターンシップ説明会	B101教室
4月22日	教授会①	会議室
4月22日	教職STUDY! 教員採用試験ってなに? [他 4/16]	教職支援室
4月22日	教員採用試験説明会【大阪市】	キャリア支援センター
4月22日	保育士資格対策講座 [他 4/29、5/13、20、27、6/3、10、17、24、7/1、8、15、22] [7/31*、8/1*、] (計15回)	B205教室
4月23日	キアラ・アンジェラ氏・シルヴィオ・ザノン氏 声楽特別講義	K603教室
4月23日	ファブリス・モレティ客員教授 サクソフォーン特別講義	ミレニアムホール
4月23日	MIRAIカフェ①「ヤマハシステム講師 長谷川恵理 さん(大学ピアノ専攻卒)を迎えて」	キャリア支援センター
4月26日	神戸市消防音楽隊採用説明会	O103教室
4月26日	教員採用試験説明会【和歌山県】	キャリア支援センター
4月30日	トマス・ゴリンスキー氏・イレーナ・マノロヴァ氏 打楽器特別講義	O101教室
5月8日	東京ディズニーリゾート出演者募集説明会	B206教室
5月10日	特別セミナー<音楽レーベルで生きるためのヒント>P-VINEレーベル石崎氏	D101教室
5月10日	堺市消防音楽隊採用説明会	O103教室
5月20日	山口哲一氏 ミュージックコミュニケーション特別講義	D101教室
5月20日	クロード・ドラングル客員教授 サクソフォーン特別講義	ミレニアムホール
5月22日	ヤマハ大人の音楽レッスン インストラクターズ・セミナー (※コラボレート・スタディ【福栄教員】内 他専攻生聴講可)	K507教室
5月27日	教授会②	会議室
5月30日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会《2019年度秋募集》	O103教室
5月31日	大学3年生・短大1年生対象 進路・就職ガイダンス	F434教室
6月4日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー①「学外インターンシップ 編」(マイナビ主催)	A305教室
6月6日	ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏グレード5級取得準備講座 [他 6/13、6/20、6/27] (計4回)	B205教室
6月12日	土岐英史客員教授・鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義(他10/16)	K404教室
6月12日	AILI氏 ポピュラー特別講義(他7/10、10/9、11/6)	K507教室
6月17日	呉信一客員教授 トロンボーン特別講義(他10/14)	O101教室
6月18日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー②「SPI性格検査受験会 編」(リクナビ主催)	F212教室
6月22日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第55回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
6月24日	教授会③ 終了後 FDフォーラム	会議室
6月24日	航空自衛隊音楽隊採用説明会	O201教室
6月25日	MIRAIカフェ③ 演奏活動 編「伴奏ピアニスト 新林 れん さん(大学ピアノ専攻卒)を迎えて」	キャリア支援センター
6月26日	陸上自衛隊中部方面音楽隊採用説明会 ※吹奏楽授業内【伊勢教員】	O101教室
6月27日	(株)響映 採用説明会	キャリア支援センター
7月8日	佐藤雅樹氏 ミュージックコミュニケーション特別講義	D101教室
7月10日	ユーエスジェイ エンターテイナー採用説明会	B207教室
7月17日	パソナグループ企業説明会	B101教室
7月17日	And Vision主催 音楽留学セミナー	B101教室

▼2019年度 法人の動き

日付	内容	場所
7月19日	大阪音楽大学管弦楽団サマー・コンサート2019	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月22日	教授会④	会議室
7月24日	MIRAIカフェ④ 演奏活動 編 「ミュージカル俳優 森 桜子 さん(大学声楽専攻卒)を迎えて」	キャリア支援センター
7月26日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義(他2/21)	K603教室
8月25日	音楽院 進学コース 前期公開実技試験	ミレニアムホール
9月12日	カワイピアノグレード6級認定特別講習(大学・短大)	F109教室
9月17日	英会話講座 [他 9/24、10/1、22、29、11/5、12、26、12/3、12/10] (計10回)	B207教室
9月19日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B205教室
9月23日	教授会⑤	会議室
9月24日	バステリアン・ボーメ氏 ユーフォニアム特別講義	O201教室
9月24日	フレディ・ケンプ氏 大学院ピアノ研究室特別講義(他9/25)	F112教室
9月27日	菊原光治客員教授 邦楽特別講義	F106教室
9月27日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー③「就職準備ガイダンス 編」	A305教室
10月3日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座 [他 10/10、17、24、11/7、11/14、28] (計7回)	B205教室
10月9日	音楽教室how-toセミナー	B104教室
10月13日	音楽幼稚園 第53回運動会	音楽幼稚園
10月18日	第39回(春期)インターンシップ説明会	B101教室
10月21日	教授会⑥	会議室
10月23日	教職STUDY!「講師登録って何？」	教職支援室
10月25日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会《2020年度春募集》	O103教室
10月28日	MIRAIカフェ⑤「ピアニスト&サントゥール奏者 内海恵 さん(大学ピアノ専攻卒)を迎えて」	キャリア支援センター
10月28日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー④「自己分析&ESの書き方セミナー①」	A305教室
10月30日	ヤマハ大人の音楽レッスン インストラクターズ・セミナー (※コラボレート・スタディ【福榮教員】内 他専攻生聴講可)	K507教室
11月5日	アルズルフ・フォン・アルニム客員教授 ピアノ特別講義(他11/6、7、8)	F112教室他
11月6日	アイケ・ヴィルム・シュルテ氏 大学院声楽研究室特別講義(他11/7、11/8、11/9)	P107教室
11月8日	第31回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月9日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象説明会(全学生保護者対象)&懇談会	F215教室、会議室 他
11月11日	大阪音楽大学大学院定期演奏会2019	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月11日	音楽教室講師採用説明会【三木楽器音楽教室 編】&スタッフ採用説明会	A303教室
11月15日	第42回邦楽演奏会	常翔ホール
11月18日	豊中市教育委員会による講師登録説明会	キャリア支援センター
11月25日	教授会⑦	会議室
11月25日	衛紀生氏 ミュージックコミュニケーション特別講義	D101教室
11月29日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑤「企業の調べ方セミナー」	A305教室
11月30日	関西学院グリークラブ・宝塚音楽学校・大阪音楽大学 ドリーム コーラス コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
12月6日	三橋貴風客員教授 邦楽特別講義	F106教室
12月6日	大阪音楽大学第62回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月7日	音楽幼稚園 作品展 「キッズ・ミュージアム」	音楽幼稚園
12月12日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑥「自己分析&ESの書き方セミナー②」	A305教室
12月12日	学内セミナー ゲーム開発サウンド制作の仕事【任天堂】	B102教室
12月16日	教授会⑧	会議室
12月17日	「フリーランスのための税金と社会保険」セミナー	A301教室
12月18日	教職STUDY!「きかせて、先輩先生」	教職支援室
12月18日	保育士資格試験対策講座ガイダンス	A305教室
12月19日	教員採用試験説明会【大阪府・豊能地区】	キャリア支援センター
12月23日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
1月8日	音楽教室講師採用説明会【ヤマハ音楽教育システム講師編】《2021年度募集》	A305教室
1月14日	MIRAIカフェ⑥ 進路決定 & 内定者 編 「ボニーキャニオン総合職内定 渡邊茉優 さん(大学クリエイション専攻)を迎えて」	キャリア支援センター

▼2019年度 法人の動き

日付	内容	場所
1月16日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
1月16日	証明写真撮影会	ばうぜ特別室
1月16日	就活メイク講座	F215教室
1月16日	And Vision主催 音楽留学セミナー	B101教室
1月19日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第28回電子オルガン・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
1月27日	教授会⑨	会議室
2月4日	大阪音楽大学短期大学部ポピュラー・コース・コンサート	サンケイホール・ブリーゼ
2月12日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑦「就活直前セミナー」	F215教室
2月13日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2月15日	第31回大阪音楽大学学生オペラ「フィガロの結婚」[他2/16]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月18日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑧「面接講座(集団面接)」	A414教室
2月20日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑨「面接講座(グループディスカッション)」	A414教室
2月20日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑨「面接講座(グループディスカッション)」	A414教室
2月23日	大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コース DAIONミュージカル第9回公演 [他2/24、25]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月25日	教授会⑩	会議室
2月29日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月29日	音楽幼稚園 発表会「たのしみショー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月16日	教授会⑪	会議室
3月19日	音楽幼稚園 第53回卒園式	音楽幼稚園
3月21日	音楽院 進学コース 後期公開実技試験 ※新型コロナウイルスにより中止	-
3月24日	音楽院 進学コース 修了コンサート ※新型コロナウイルスにより中止	-

＜B. 社会連携活動事業＞

4月6日	0歳からのファミリーコンサート(他8月10日、2月1日)	フレンテホール
4月13日	こども春の無料体験	大阪音楽大学第一キャンパス
4月13日	ファミリーコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月13日	指導者のための合唱指揮講座！(他4月27日、5月18日、6月1日、7月13日)	第1キャンパス、ザ・カレッジ・オペラハウス
4月17日	サロンコンサート(他5月19日、6月29日、9月1日、10月27日)	音楽院さくら夙川校サロン
4月20日	ジュニアコーラスToi Toi Toi無料体験	第1キャンパス
4月21日	オープンキャンパス(Cr・Co・Cd・Og・Jz・Po・Eo・Mu)	第2キャンパス
5月12日	オープンキャンパス(C・Cd・V・P・O・GM・H)	第2キャンパス
5月13日	一般社会人のためのオペラ講座(他5月20日、6月3日、6月10日、6月17日)	第1キャンパス、ザ・カレッジ・オペラハウス
5月25日	ピアノの実力診断(他7月21日)	ミレニアムホール
5月26日	豊中南ロータリークラブ50周年記念事業 「第2回豊中 夢の第九」	ザ・カレッジ・オペラハウス
5月26日	大人・社会人のためのピアノフェスティバル	ミレニアムホール
5月28日	オペラ物知り講座(他6月25日、10月29日、1月14日)	ミレニアムホール
6月2日	吹奏楽フェスティバル	第1キャンパス他
6月15日	第5回豊中音楽コンクール 予選[他6/16 本選6/30]	ザ・カレッジ・オペラハウス
6月23日	トライアルレッスン・個別進学相談会	第1キャンパス
6月30日	Daion Piano Grade	第1キャンパス
7月7日	オープンキャンパス	第2キャンパス
7月31日	夏期講習会	第1キャンパス
8月3日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス
8月5日	シブリアン・カツァリス ピアノリサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
8月6日	教員免許状更新講習(雅楽・日本伝統音楽・リコーダー・打楽器・指揮法・合唱) [他8/7、19、20、21、22、27、28、29]	ミレニアムホール・F215教室他
9月4日	宮水学園出張講座	フレンテホール
9月4日	大阪府医師協同組合出張講座	大阪府医師協同組合

▼2019年度 法人の動き

日付	内容	場所
9月8日	女声コーラスコンサート	ミレニアムホール
9月11日	学3編入推薦・短専特別入試	第1キャンパス
9月22日	進学実技認定テスト	第1キャンパス
9月28日	大学院入試前期日程	第1キャンパス
9月29日	第9回豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月5日	第5回豊中音楽コンクール受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月14日	オープンキャンパス	第2キャンパス
11月1日	第55回オペラ公演「カプリエティとモンテッキ」[他11/3]	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月17日	Daion吹奏楽フェスティバル2019～吹奏楽の饗宴～	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月20日	大学・短大推薦入試(～11月22日)	第1キャンパス
11月30日	音楽指導者の為の幼児・こどもへの音楽指導法	第1キャンパス
12月1日	トライアルレッスン・個別進学相談会	第1キャンパス
12月7日	本学教員による受講生のためのマスタークラス(他12月14日、12月21日)	第1キャンパス
12月15日	本学教員による受講生のためのマスタークラスの実施(他12月22日)	音楽院さくら夙川校サロン
12月23日	冬期講習会	第1キャンパス
12月26日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス
2月2日	大学・短大一般入試A日程(～2月5日)	第1キャンパス
2月15日	器楽合同発表会(他2月16日、2月22日)	ミレニアムホール
2月19日	学3編入一般・短専・大専入試(～2月21日)	第1キャンパス
2月23日	ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
3月1日	声楽合同発表会	ミレニアムホール
3月6日	大学院入試後期日程(～3月7日)	第1キャンパス
3月8日	音楽院 オルガンコンサート ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月8日	【中止】大阪音楽大学 第51回 吹奏楽演奏会	－
3月14日	ミュージックカーニバル ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月15日	ミュージックカーニバル ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月18日	大学・短大一般入試B日程	第1キャンパス
3月20日	ミュージックカーニバル ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月21日	さくら夙川校発表会 ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月22日	音楽基礎科目認定テスト ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月22日	トライアルレッスン・個別進学相談会 ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月28日	声楽合同発表会 ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月29日	声楽合同発表会 ※新型コロナウイルスにより中止	－
3月31日	ミュージックカーニバル ※新型コロナウイルスにより中止	－